

突発的・局所的な豪雨による災害に関する予測技術の開発

政策提言先 文部科学省

政策提言の要旨

本県では、平成26年台風第12号、第11号による豪雨で、総雨量が2,000ミリに達し、河川の氾濫による市街地の浸水や中山間地域での土砂災害が数多く発生しました。

広島市を襲った土砂災害でも、いわゆるバックビルディング現象など異常な降雨が引き金となりましたが、このように突発的・局所的に発生するゲリラ豪雨は、今後日本全国で増えていくことが懸念されます。

県や市町村は、平時から気象情報や河川水位等の情報の収集・伝達体制の確立や報道機関への情報提供システムの導入など災害への対応力の強化に努めていますが、ゲリラ豪雨等の発生を事前に予測できれば、住民への避難勧告をはじめ、早めの防災体制をとることが可能となり、被害を大きく軽減することができます。

このため、国において災害予測技術の研究開発に一層取り組んでいただくことを提言します。

【政策提言の具体的内容】

- ①突発的・局所的な豪雨に関する早期予測システムの研究開発
- ②浸水被害や土砂災害などの災害予測技術の研究開発

【政策提言の理由】

- 本県では、平成26年台風第12号、第11号による豪雨で県中央部を中心に2,000棟を超える住家が浸水被害に見舞われるなど多くの災害が発生しましたが、過去にも平成10年には高知市を中心に県中部、平成13年には県西部で豪雨による大規模な災害が発生しております。
- また、平成26年8月広島市を襲った土砂災害では74名の死者、平成25年の伊豆大島では39名の死者・行方不明者を出し、本県においても昭和47年の繁藤災害では60名の死者を出したように、土砂災害は多くの人命被害を伴います。
- 今後もこうした突発的・局所的な豪雨は日本全国で起こり得るものだと考えます。
- 本県では、気象警報などが発表された際には、ホームページなどで河川の水位や土砂災害に関する様々な情報を県民に提供し、警戒を広く呼び掛けているところですが、さらなる対策も必要だと考えています。
- こうした中、ゲリラ豪雨などの発生を一刻も早く、また可能な限りエリアを絞って予測できれば、避難勧告等の発令を適時的確に行うなど早めの防災体制をとることができます。また、河川の氾濫や内水による浸水被害や土砂災害などの発生を精緻にシミュレーションした予測ができれば、対策のエリアを限定でき被害を最小限にとどめることができます。

【高知県担当課室】 危機管理部危機管理・防災課

突発的・局所的な豪雨による災害に関する予測技術の開発

高知県

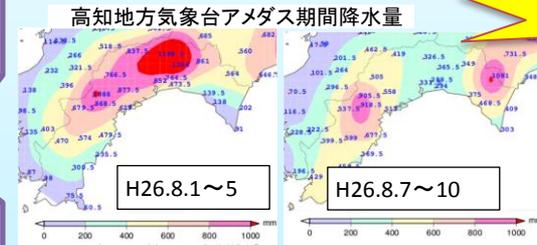
近年多発する
記録的豪雨

突発的・局所的な豪雨の状況

高知県における近年の 突発的・局所的な自然災害	主な住家浸水被害		最大時間 雨量	最大 総雨量
	床上	床下		
平成26年 台風第12号、11号	748棟	1,151棟	112ミリ/h	2,077ミリ
平成13年 高知県西南部豪雨	264棟	541棟	131ミリ/h	615ミリ
平成10年 '98高知豪雨	9,446棟	7,807棟	129ミリ/h	874ミリ



昭和47年の
繁藤災害では
土砂災害により
60名の死者



ゲリラ豪雨・集中豪雨によって、都市部を流れる中小河川は、容量が小さいがゆえに急激に増水し多くの人々を危険にさらし、中山間地域では土砂災害も数多く発生

平成26年8月広島市を襲った土砂災害では74名の死者
平成25年の伊豆大島では39名の死者・行方不明者
多くの人命被害を伴う大規模な土砂災害！
今後もこうした突発的・局所的な自然災害は、
日本全国で起こり得る！

本県は、早めに高知県災害対策本部を立ち上げ、市町村や関係機関と連携をとり事前の対応に着手
ホームページなどで河川の水位や土砂災害に関する情報など
災害に関する様々な情報を提供しながら警戒を広く呼び掛け

対策

ゲリラ豪雨など突発的・局所的な自然災害の発生を一刻も早く可能な限りエリアを絞って予測できれば、県や市町村は一層早い事前の準備が可能となり、避難勧告等の発令も適時的確に行うことができ、住民は早期に避難行動が可能
あわせて河川の氾濫や内水による浸水被害や土砂災害などの発生を精緻にシミュレーションした予測ができれば、被害は最小限に軽減可能



人命を救うためには、早期予測が必要

政策提言

- ①突発的・局所的な豪雨に関する早期予測システムの研究開発
- ②浸水被害や土砂災害などの災害予測技術の研究開発